

女性健康 セミナー

Q
乳ガン

知っていますか？ 乳がんのこと…



乳腺専門外来
ブレストケアセンター

Q 乳ガンのことが気になっています。
どんな時に検診を受けたら良いのですか？

A 乳ガンは30代後半から急激に増えて45歳前後にピークがある、比較的若い女性に多いガンです。ですから30歳になったら全員乳ガン検診を受ける方が良いでしょう。乳ガン検診はマンモグラフィと超音波の両方をおこなった方が見落としが少なくなります。受診時期は乳腺の張りや痛みの少ない、月経終了後一週間後がベストです。しかし、気になる症状があれば時期は気にせず早めに専門施設での受診が大切です。←

Q ときどき乳房に痛みを感じるのですが、
なにか病気に関係がありますか？

A 女性の乳房は月経が来る毎に肥大したり、縮んだりを繰り返す臓器で、これは、卵胞ホルモン（エストロゲン）の作用によるものです。卵胞ホルモンには乳腺の血流を増やす作用もあり、もっともホルモンの増える月経前には乳腺が張って硬くなり何割かの人には痛みを感じるようになります。しかし、月経周期と関係のない痛みや張りがある場合、痛みだけでなく硬い部分が触れる場合は、検査が必要です。きちんと検査を受ける事によって、不安が解消されることが多くあります。←

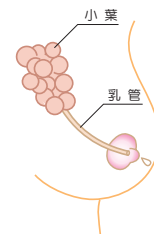
Q 乳ガンになりやすいのはどんな人ですか？
また、生活習慣と関係がありますか？

A 日本人女性の30人に1人はかかる病気です。この病気の増える原因としては女性の晩婚少子化、食事に含まれる脂肪の量の増加が指摘されています。また、意外と思われるかもしれませんがアルコールの摂取も、因果関係があると言われています。つまり女性の社会参加の機会が急激に増加したことが、皮肉にもこの病気を増加させているとも考えられます。ますます検診による早期発見が大切になってきます。←



Q 乳頭から分泌物が出てきて気になるのですが、
なにか病気に関係がありますか？

A その分泌物の色が、赤色や茶色であれば要注意です。女性の乳房はいつでも少量の分泌物を作っています。しかし、通常はそれと解るほどの量ではありませんが、乳房を押しただけで分泌物が出る場合、特に血液の混じった分泌物や茶色の分泌物が出る場合は乳管（乳汁が出る管）の中に小さなガンが隠れている場合があります。このような小さなガンは見逃されやすいので経験豊富な専門の医療施設を受診されることが大切です。←



乳腺症？



乳腺症と言われたのですが、
乳腺症ってどんな病気ですか？



乳房の痛みや張りなどで病院を受診され、「乳腺症(にゅうせんしょう)」と言われたことがある方は多いのではないのでしょうか。「乳腺症」とは、卵胞ホルモンの作用で起きる乳房のしこりや痛みや張りのことを言い、単一の病気ではありません。しかし、乳房の痛みや張りには月経周期に伴う生理的なものも多く含まれ、厳密にはこれらは除くべきであり、その周期に伴わないものを「乳腺症」とすべきでしょう。

痛みや張りの症状のみで、超音波検査を受けた結果まったく異常がないものから、乳管の拡張やガンと紛らわしい腫瘍を作るものまで様々な場合があります。また、乳腺症があると乳腺全体が硬く張ってしまうため、しこりがあってもレントゲン検査の精度も落ちてしまい、ガンが見つけにくくなります。このような場合は、超音波検査が極めて有効なので両方を併用した検診を受けるのが良いでしょう。通常は閉経すると乳腺症は治ります。◀

この回答は、当院のブレストケアセンター
乳腺甲状腺外科江嵐医師によるものです。

八尾総合病院
(076)454-5000